

2021年07月27日

株式会社アイ・エス・ビー

国立がん研究センター東病院と緩和医療における患者服薬確認を行う AI 技術に関する共同研究契約を締結

株式会社アイ・エス・ビー（本社：東京都品川区、代表取締役社長：若尾一史）は、国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院（所在地：千葉県柏市、病院長：大津 敦）と緩和医療における服薬動作の確認を行う AI 技術に関する共同研究契約を締結しました。

本研究は、緩和医療における患者の服薬状況をデータ化することを目的とした AI 技術研究です。緩和医療中の患者に対し服薬状況を自動確認できるようになることで、客観的データの集積が可能となり、在宅療養を含めより正確な服薬管理が可能となります。また、アイ・エス・ビーの保有技術を活用した「患者見守り AI 技術」を併用することでより高度な緩和医療に貢献することが可能です。

当社は、「医療業務の高度化」を促す本研究を通じ、社会全体に対する DX（デジタルトランスフォーメーション）推進に貢献していきます。

● 共同研究契約概要

研究題目	患者服薬履歴のデータ化に有効な AI 技術の研究
研究目的	服薬状況のデータ化（服薬時刻など）
研究内容	患者服薬を確認する AI 技術の研究開発、研究技術を搭載したシステムの試作と有効性評価。（国立がん研究センター東病院にて臨床試験を予定。）

● アイ・エス・ビーの医療分野、AI 分野での実績について

当社は、すでに 40 年近く医用画像処理・通信処理受託開発に携わり、そこで蓄積した技術をもとに医用画像フォーマットとそれらを扱う医療機器間の通信プロトコルの規格である DICOM をマルチプラットフォームライブラリとして開発しています。

これをベースにしたプロダクト（L-Share）も販売しています。なお、医療画像ビューワ「L-Share Viewer」は、薬機法（医薬品医療機器等法）認証も取得しています。

※ 承認番号等：229ADBZX00127000

クラス分類：管理医療機器（Class II）

また、AI 分野においては、商用導入実績として「スマートフォンカメラでの被写体自動分類 AI」や「自然言語による感情分析、意図解釈などの言語系 AI エンジニアリング（モデル開発/改造・データ収集・分析・補強）」などを保有し、研究開発として「動画データの異常検知技術」や「時系列データの特徴量分析（分類・回帰）」などの実績があります。

医療、AI とともに当社として注力している分野であり、今後とも、積極的に医療と AI を融合させた技術開発を進めていきます。

- 国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院について

<https://www.ncc.go.jp/jp/ncce/>

- 当社プロダクト（L-Share）製品の詳細について

<https://lshare.isb.co.jp/>

お問い合わせ先

株式会社アイ・エス・ビー

東京都品川区大崎 5-1-11 住友生命五反田ビル

TEL 03-3490-1761（代表）

FAX 03-3490-7718

<https://www.isb.co.jp/contact-us/>

※記載された内容は 2021 年 7 月現在のものです。